№J2115

「アジアの市民社会」：ホノルル国際会議４－市民社会の多様性を探る

メルボルン大学アジアインスティチュート教授
小川　晃弘

上記のカンファレンスについて、英語名「Civil Society in Asia 4: International Conference in Melbourne 」として、2022 年 12 月 7 日より 9 日まで、3 日間にわたり、メルボルン大学シドニーマイヤーアジアセンターにて開催された。24 本のペーパーが発表され、参加者は延べ 109 名（対面 72 名、オンライン 37 名）に上った。オーストラリアほか、日本、中国、台湾、アメリカ、イギリス、ドイツ、ニュージーランド、バングラデシュ、タイ、スリランカ、ネパール、フィリピンの計 13 の国と地域から集った。

Asian Civil Society Research Network（アジアの市民社会研究ネットワーク）では、2017 年より、「アジアの市民社会」をテーマにしたカンファレンスを主催してきた。4 回目となる今回のテーマは、アジアの市民社会の「多様性」であった。西欧社会の市民社会組織と対比しながら、アジアにおける「他（西欧社会）とは違う特徴のある市民社会組織」の事例が紹介され、その複雑な形態、運動の枠組み、歴史、言説などを焦点に、「アジアの市民社会」が多方面から活発に議論された。

今回のカンファレンスでは、台湾亜州交流基金会(Taiwan-Asia Exchange Foundation）の蕭新煌（Michael Hsiao）教授を基調講演者（オンライン）として迎え、「A Century of Civil Society Activism in Taiwan: 1920-2022」をテーマにお話しいただいた。

また最終日には、アジアの市民社会研究ネットワークのコロンボ支部長であるウーダン・フェルナンド氏が監督したドキュメンタリーフィルム「Evoking the Kingdom: Claims of Monarchy in Modern Sri Lanka 」が上映された。その際、在メルボルンのスリランカ民主社会主義共和国総領事館の H.M.K. ヘラス総領事の出席もあった。

同ネットワークでは、これまで「アジアの市民社会」に関する 3 冊の編著本を出版してきたが、今回のカンファレンスでの議論をもとに、次作についても、2023 年前半までに初校を仕上げるとともに、共同代表者の小川晃弘とアンソニー・スパイアーズ(共にメルボルン大学）が編者となって、Routledge 社に企画書を提出予定で、2024 年中頃の出版を目指している。

カンファレンスのウェブサイト（プログラムを含む）
https://sites.google.com/view/civilsocietyconf4/home